

高知市の銭湯の経営状況と今後の課題

～銭湯のこれからを考える～

1170454 中野 雄貴

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

銭湯は全国的に年々減少傾向にあり、銭湯の経営者並びに利用者の高齢化が問題となっている。高知市内の清水湯では銭湯利用者の平均年齢が65歳という結果も出ている。つまり、若者が銭湯を利用しなくなっているのが銭湯業界の現状である。

本研究では銭湯が廃業する原因を明らかにし、銭湯利用者はどのような目的で銭湯を利用しているのか。また現在の若者がどの程度銭湯に興味関心があり、銭湯を利用しているのか、あるいはなぜ銭湯を利用しないのかを明らかにする。

銭湯とは、地域住民の日常生活において保健衛生上、必要なものとして利用される施設であり、長年にわたり日本の入浴文化を支えてきた存在である。しかし私自身も銭湯を利用したことがないので、まずは自身の肌で銭湯を体験し、銭湯への理解を深めた上で銭湯経営者へのインタビュー、並びに銭湯利用者へのアンケート調査を行う。そして高知工科大学の学生(若者)を対象に銭湯に関するアンケート調査を行う。

2. 背景

日本には湯船に浸かる入浴文化があり、銭湯はそのうちのひとつである。昔は浴室がない住宅や浴室があっても、家族で銭湯に行くことは珍しいことではなかった。

しかし、時代の流れとともに住宅に浴室が完備されるようになると、銭湯の利用者が減少し、銭湯そのものも減少している。現在では、浴室のある住宅の割合は95%以上となっていて、浴室保有率はかなり高い水準となっている。昭和30年前後に建築された住宅は浴室保有率93%と最も低く、昭和56年以降に建築された住宅では浴室保有率99%と、ほぼすべての住宅に浴室があるといっても過言ではない。

一方、全国的な銭湯の最盛期は昭和40年ごろでおよそ

22000軒の銭湯があった。また、高知市の銭湯の最盛期は昭和35年ごろで、高知市内だけで200軒以上の銭湯があり、1日平均500人前後の人たちが銭湯を利用していた。当時の人たちにとって銭湯は、日常生活をする上で必要不可欠な存在となっていた。

しかし2016年の現在では1日平均60人～70人にまで銭湯利用者が減少してしまっている。かつては多くの人が利用していた銭湯も現在では、高知県だけでなく全国的にも年々著しい減少傾向となっている。高知市内でも全盛期には200軒以上あった銭湯が現在では5軒にまで減少してしまっている。

日本の古き良き入浴文化の一つである銭湯をこれ以上廃業させないためには、まず自分が銭湯に足を運び自分の目で銭湯の現状を把握し、銭湯がどのような空間であるのかを理解する必要があると考えた。なぜならば、私自身も銭湯に行ったことがなかったからだ。

3. 目的

本研究では、「高知県公衆浴場生活衛生同業組合」に加盟していて高知市にある清水湯、城下湯、潮湯、高砂湯、土佐温泉の5つの銭湯、特に清水湯に焦点を当てて経営者へのインタビュー、銭湯利用者と若者へのアンケート調査などを行う。また本研究では、以下の3点を明らかにすることを主な目的とする。目的1、銭湯が廃業する原因を明らかにすること。目的2、銭湯利用者はどのような目的で銭湯を利用しているのかを明らかにすること。目的3、現在の若者がどの程度銭湯に興味関心があり、銭湯を利用しているかどうかを明らかにすること。さらに目的2と目的3には仮説を立てておく。目的2の仮説として仮説1、自宅に浴室がない人が銭湯を利用している。目的3の仮説として仮説2、自宅に浴室がある人は銭湯を利用していない。以上の3つの目的と2つの

仮説を明らかにすることを本研究の目的とする。

4. 研究方法

本研究では、「高知県公衆浴場生活衛生同業組合」に加盟している「清水湯、城下湯、高砂湯、潮湯、土佐温泉」の5つの銭湯のうち、清水湯を対象とし調査を行う。



- ☆1 清水湯 ☆2 城下湯 ☆3 高砂湯
- ☆4 潮湯 ☆5 土佐温泉

図1：高知市内で現在経営している銭湯の位置

はじめに、高知県公衆浴場生活衛生同業組合のホームページの情報を頼りに現在営業している銭湯を探した。高知市内の銭湯一覧表を見ると10軒の銭湯がヒットし、住所、営業時間、電話番号、定休日、駐車場の有無などが分かった。しかし、データ更新日が少し古かったためか、実際に現在営業している銭湯は5軒であった。5軒中、唯一ホームページのある清水湯に焦点を当て、実際に足を運ぶことにした。

そこで清水湯を経営するご夫婦協力のもと、経営者にインタビュー、また利用者にアンケート調査を実施した。清水湯の店主にインタビューを行い、現在の経営状況や過去から現在に至るまでの情報や資料を得た。また、清水湯を利用している利用者59名にも銭湯に関するアンケート調査を行い集計する。

次に高知工科大学の学生62名を対象に現在の若者は銭湯にどの程度の興味関心があるのか、また銭湯を利用しているかどうか、などの銭湯に関するアンケート調査を行い集計する。

5. 結果

5.1 高知市内の銭湯詳細

高知市内の5つの銭湯の詳細をこちらに記す。

- ① 住所 ② 営業時間 ③ 電話番号 ④ 定休日
- ⑤ 駐車場の有無 ※入浴料金＝一律400円

清水湯：①高知市桜馬場6-8 ②14:30～23:30
③088-873-0050 ④火曜日 ⑤あり

城下湯：①高知市小津町3-30 ②13:40～23:30
② 088-872-7652 ④土曜日 ⑤あり

高砂湯：①高知市新本町2-7-15 ②13:30～22:30
③ 088-875-0621 ④火曜日 ⑤あり

潮湯：①高知市潮新町1-8-19 ②15:30～21:30
④ 088-831-2283 ④日曜日 ⑤あり

土佐温泉：①高知市百石町4-12-25 ②13:30～21:00
③088-832-6654 ④日曜日 ⑤あり

5.2 銭湯初体験&インタビュー交渉

銭湯がどのようなものかを初体験するため10月6日の2時30分ごろ、実際に清水湯へ足を運んだ。この日の目的は、銭湯という空間がどのような感じなのかを自身の肌で体験し、インタビュー並びにアンケート調査にご協力していただけるように交渉することを第一の目的とした。

清水湯の男湯では中に入っすぐ左のところに番台があり、そこで入浴料金を支払うシステムとなっていた。入浴料金だけでなくドライヤーや飲み物の代金なども番台に直接支払う仕組みとなっている。女湯は入っすぐ右に番台があるので、番台からは男湯も女湯も見渡せる位置にあることが分かった。もちろん着替えなどは見えないように目隠し用のフェンスのようなものはある。入浴料金を支払い、一通り入浴を済ませてから交渉をすることにした。清水湯ではあつ湯とぬる湯の2つの主浴槽があり、他にも水風呂、電気風呂、薬湯などお湯の種類が豊富である。さらに薬湯ではジェットバスのように勢いよく泡が噴き出ている、リラクゼーション効果は抜群であった。またお風呂の種類が豊富だけでなく、

乾式サウナと湿式サウナの2種類のサウナで汗を流すことができる。それぞれのお風呂やサウナには好ましい入浴方法や効能が分かるように張り紙があるので初めてでも非常に入浴しやすくなっている。利用者については想像していた以上にたくさんの人がいて、私が浴場にいる間だけでも10人以上の利用者がいた。ただ、私が見た感じではあるが利用者の多くは高齢者であるように思えた。

一通りの入浴を終えた後、番台へ行き交渉を行った。交渉の結果、インタビュー並びにアンケート調査にご協力いただけることになり、10月8日午前8時からインタビュー並びにボイラー室などの普段は立ち入ることのできない場所の見学をさせていただけることになった。

5.2 インタビュー

インタビュー当日はボイラー室の見学、浴場の掃除体験などを行い、適宜私の質問にも答えていただく形となった。見学と掃除体験が終わった後には、過去にテレビ局から取材を受けたときの新聞記事や資料のコピーをいただいた。

まずボイラー室の見学では、ボイラーや水をろ過する装置など普段は目にすることのできない複数の機材の説明をしていただいた。清水湯の店主によると、銭湯経営で一番大事なことは、このボイラー室とのことだ。なぜならば、このボイラー室こそが銭湯の心臓部だからである。ボイラーなどの機材の価格を聞いたところ、どれも数百万はするととても高価なものであり、燃料代も高いため経営を圧迫しているという。また、ボイラーなどの機材の故障が銭湯を廃業へ追い込む1つの要因であることが分かった。これらの機材はどれも数百万する高価なものであり、修理するだけでもかなりの金額になってしまう。そのため、ボイラーなどの銭湯を経営する上では欠かせない機材が故障してしまった場合にそのまま廃業してしまう銭湯も少なくないようだ。利用者が減少している中、現在の経営がギリギリのラインで5年後にはどうなっているのかわからないとのことだ。

次に浴場の掃除体験では、手桶やイス、床や浴槽内を隅から隅まで丁寧に掃除をするため、普段は3時間ほど時間がかかるそうだ。銭湯でよく見かける「ケロリン」と書かれた手桶は、昭和38年ごろ（東京オリンピックの前年）に薬品会社の広告として導入されたのがきっかけである。また、銭湯の利用者についての質問をすると、利用者の7割から8割が

リピーターであることが分かった。さらに利用者の多くが60歳以上の高齢者であることも分かった。

清水湯では、私以外にも高知県立大学の学生などが銭湯に興味関心を持ち、話を聞きに来たことがあるらしく、その時は学生が冊子を作ったという話を聞いた。また、新聞やテレビ局などから取材のオファーが来ることも多々あり、その際は積極的にオファーを受け入れているらしい。さらに毎年3月には、近所の小高坂小学校の4年生を対象に体験入浴を実施しているとのことだ。小学生に友達や家族と大きなお風呂に入る楽しさやマナーなどを知ってもらうと共に、銭湯の魅力や良さを発見してもらえると光栄である。

5.3 インタビューの結果とまとめ

インタビューを通して、銭湯が廃業に追い込まれる原因は外部環境の変化などによる外的要因と銭湯内部の問題である内的要因の2パターン存在することが明らかとなった。外的要因についてはインタビューをする前からある程度の予測ができていたが、内的要因については予想外の結果となった。

まず、外的要因では住宅の浴室保有率の上昇や大型温泉施設、スーパー銭湯などの増加により、銭湯を利用する人が減少し、廃業に追い込まれるパターンである。実際にスーパー銭湯が近所にできたことがきっかけで、廃業してしまった銭湯が高知市内にあるのも事実である。次に内的要因では、ボイラーや水をろ過する機材など、銭湯を経営する上で必要不可欠な機材が故障してしまい、そのまま廃業に追い込まれるパターンである。簡単な故障であれば自力で修理することも可能らしいが、本格的に故障してしまった場合は新しく買い替えるのはもちろん、修理するのでもかなりの費用が必要になってしまう。そのため、故障をきっかけに廃業する銭湯も少なくないのである。以上の外部環境の変化などの外的要因と銭湯内部の問題である内的要因の2つが銭湯を廃業へと追い込む原因であるという結果になった。

5.4 銭湯利用者へのアンケート結果

清水湯を利用している59名の方を対象に、本研究の目的の1つでもある、どのような目的で銭湯を利用しているのか、また仮説1でもある、自宅に浴室がない人が銭湯を利用しているのか、を明らかにすることを主軸にアンケート調査を行

った。アンケートでは5つの質問を行い、問1から問4までは選択形式、問5だけは筆記形式としている。

まず問1では、あなたの家にお風呂はありますか、という仮説1を検証するための質問を行った。結果から説明すると「ある」と回答した人が53人、「ない」と回答した人が6人であった。銭湯を利用している人は、自宅に浴室がない人が多そうなイメージであったが、実際は90%の人が自宅に浴室があり、自宅に浴室がないのは10%の人だけという結果になった。よって仮説1は間違いであると分かった。

次に問2では、あなたが銭湯を利用する頻度を教えてください、という質問を行った。

	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	初めて
回答数	37	15	6	1	0
割合	62.7%	25.4%	10.2%	1.7%	0%

「ほぼ毎日」銭湯を利用している人が37人で62.7%
 「週に数回」銭湯を利用している人が15人で25.4%
 「月に数回」銭湯を利用している人が6人で10.2%
 「年に数回」銭湯を利用している人が1人で1.7%
 「初めて」という人は今回のアンケートをしたときにはいないという結果になった。インタビューとアンケートの両方の結果から分かるように、銭湯を利用している人の大多数がリピーターであるということが分かった。「ほぼ毎日」と「週に数回」銭湯を利用している人を合計すると約90%近くの人のリピーターという結果で、新規の利用者を獲得することが今後の課題であると感じた。

続いて問3では、あなたが銭湯を利用する目的を教えてください、という本研究の目的の1つでもある質問を行った。なお、この質問は複数選択可能としている。

問3	1	2	3	4	5	6	7
回答数	5	57	8	23	1	35	2
割合	8.5%	96.6%	13.6%	39.0%	1.7%	59.3%	3.4%

- | | |
|----------------|--|
| 1. 家に浴室がないから | |
| 2. リラックスしたいから | |
| 3. 近くに銭湯があるから | |
| 4. 入浴料金が安いから | |
| 5. 家の風呂が故障中だから | |
| 6. 交流の場として | |
| 7. その他 | |

↑ 選択肢

問1の「自宅にお風呂がない」と回答した人は6人で、問3の「家に浴室がない」と「家のお風呂が故障中だから」と回答した人の合計が6人となった。つまり自宅に浴室がない、あるいは浴室が故障している6名の人の銭湯を利用する目的の1つは、自宅に浴室がない、あるいは使えないからであるという結果になった。

また銭湯を利用する目的をランキング形式にすると、「リラックスしたいから」を選択した人が57人で96.6%
 「交流の場として」を選択した人が35人で59.3%
 「入浴料金が安いから」を選択した人が23人で39.0%
 「近くに銭湯があるから」を選択した人が8人で13.6%という結果になった。その他の意見では、「病気によいためから」「サウナがあるから」という意見もあった。

この結果から銭湯を利用している96.6%と、ほぼすべての人たちは「リラックスすること」を一番の目的としているという結果になった。お風呂に入るのだから当たり前と言えば、当たり前の結果ともいえる。

そして2番目に多かった目的が「交流の場として」という選択肢で過半数を占める59.3%であった。銭湯が交流の場としてリピーターに利用されることは非常に良いことかもしれないがその反面、新規の利用者にとっては打ち解けにくい空気が少なからずあるのではないだろうか。実際に私も最初は打ち解けることができていなかったが、いざ話しかけると気さくで優しい人ばかりで銭湯（清水湯）でのマナーを教えてくださいました。

続いての「入浴料金が安いから」については問4の入浴料金についてのところで詳細を記す。

最後に「近くに銭湯があるから」を目的として銭湯を利用している人は13.6%と意外と低い結果となった。これは銭湯が減少してしまい、家の近くに銭湯がないことが要因の1つとして考えられる。あるいは、近さよりも上記のリラックスや交流を目的として銭湯を利用している人が多いからだともいえる。

続いて問4では、入浴料金についての質問を行った。

	高い	普通	安い
回答数	0	30	29
割合	0%	50.8%	49.2%

選択肢は「高い」、「普通」、「安い」の3つを用意していた

が「高い」を選択した人は1人もいないという結果になった。銭湯の入浴料金は物価統制令により、高知市内の銭湯の場合は一律400円と定められている。しかし、数年前までは入浴料金が360円だったので40円の値上がりをしたことで少しは高いと選択する人もいただろうと考えていたが、誰も高いを選択しない意外な結果となった。また、「普通」を選択した人が50.8%、「安い」を選択した人が49.2%とほぼ半数ずつの結果となった。清水湯は、銭湯でありながらお風呂の種類が豊富であり、サウナまであることが、このような結果をもたらしたと考えられる。

最後に問5では、銭湯のどのようなところに魅力を感じますか、という質問を筆記形式で行った。

獲得票数	魅力の内容
20票	リラックスできる、ゆったりできる
15票	お風呂の種類が豊富（サウナなど）
12票	人との交流ができる
10票	気持ちが良い
5票	家の風呂ではだめ（掃除が面倒、狭い等）
5票	温まる
4票	きれい
2票	静か
1票	お気に入り

※似た内容のものは私の判断で1つにまとめている。

問5の質問を集計した結果、リラックスできる、ゆったりできる：20票、お風呂の種類が豊富：15票、人との交流ができる：12票、気持ちが良い：10票、家の風呂ではだめだ：5票、温まる：5票、きれい：4票、静か：2票、お気に入り：1票という結果になった。問3でもほぼすべての人が回答していた「リラックスしたいから」や過半数の人が回答していた「人との交流」は、問5でも多くの人が銭湯の魅力として回答していることから、銭湯を経営する上では重要な項目になると考えられる。また、清水湯はスーパー銭湯に負けなぐらいお風呂の種類が豊富なことが魅力の1つでもあるので、SNSなどを活用し今以上に情報を発信していくことが必要だと考える。また仮説1の結果として、自宅に浴室がない人が銭湯を利用しているという仮説1はアンケートの結果から間違いであることが分かった。

5.5 学生へのアンケート結果

高知工科大学の学生62名を対象に、目的3の現在の若者

がどの程度銭湯に興味関心があるか、銭湯を利用している場合どのような目的で銭湯を利用しているのか、銭湯を利用したことがない場合なぜ銭湯を利用しないのか、仮説2の自宅に浴室がある人は銭湯を利用しないのか、を明らかにすることを目的としてアンケートを実施した。

まず問1では5つの選択肢の中から、現在高知市内に何軒の銭湯があるか知っているか、という質問を行った。

問1	5軒	16軒	29軒	57軒	100軒以上
回答数	21	16	17	8	0
割合	33.9%	25.8%	27.4%	12.9%	0%

※問1の質問の正解は5軒である。

この質問で5軒を選択した人は21人で33.9%、16軒を選択した人は16人で25.8%、29軒を選択した人は17人で27.4%、57軒を選択した人は8人で12.9%、100軒以上を選択した人はいないという結果になった。選択肢を用意していたため、結果だけを見ると正解である5軒を選択した人が一番多いが、回答が4つの選択肢に散らばっていることを考えると、高知市内に銭湯が何軒あるかは認知されていないとも考えることができる結果となった。

次に問2では5つの選択肢の中から、現在高知市内の銭湯の入浴料金を知っているか、という質問を行った。

問2	200円以下	300円	400円	500円	600円以上
回答数	0	10	17	22	13
割合	0%	16.1%	27.4%	35.5%	21.0%

※問2の質問の正解は400円である。

この質問では200円以下を選択した人はおらず、300円を選択した人が10人で16.1%、400円を選択した人が17人で27.4%、500円を選択した人が22人で35.5%、600円以上を選択した人が13人で21.0%という結果になった。実際の入浴料金が400円なのに対し、500円と600円以上を選択した人の合計が56.5%と過半数を占めていた。高知市内の銭湯の入浴料金はあまり認知されていないが、入浴料金以上の金額を払える人が多くいるということが分かる結果となった。

続いて問3では温泉と銭湯の施設のイメージについての質問を行った。サウナ、水風呂、電気風呂、露天風呂、ジェットバス、浴槽の6つは温泉と銭湯でどれだけ必要とされてい

るのかを数値にして検証を行った。

【温泉】

問3温泉	必要		普通		不要	平均
サウナ	5	4	3	2	1	3.9
回答数	23	20	11	6	2	
水風呂	5	4	3	2	1	3.5
回答数	17	16	13	13	3	
電気風呂	5	4	3	2	1	3.0
回答数	5	13	23	20	1	
露天風呂	5	4	3	2	1	4.1
回答数	26	24	6	3	3	
ジェットバス	5	4	3	2	1	3.5
回答数	15	16	18	10	3	
浴槽	5	4	3	2	1	4.5
回答数	43	9	8	0	2	

【銭湯】

問3銭湯	必要		普通		不要	平均
サウナ	5	4	3	2	1	3.3
回答数	9	21	16	12	4	
水風呂	5	4	3	2	1	3.2
回答数	8	18	17	15	4	
電気風呂	5	4	3	2	1	2.7
回答数	4	9	21	18	10	
露天風呂	5	4	3	2	1	3.2
回答数	15	18	8	9	12	
ジェットバス	5	4	3	2	1	3.0
回答数	9	16	16	10	11	
浴槽	5	4	3	2	1	4.4
回答数	42	7	8	3	2	

※平均の計算方法は必要から不要までの5段階評価に各回答数を掛け合わせ、総回答数（62）で割ったもの。

例：銭湯の浴槽の平均

$$\{(5*42) + (4*7) + (3*8) + (2*3) + (1*2)\} / 62 = 4.4$$

まず温泉も銭湯も浴槽、露天風呂、サウナ、水風呂、ジェットバス、電気風呂の順に必要なとされていることが分かった。しかし、温泉と銭湯の各平均値を比較すると銭湯の方が温泉よりも各項目の平均値が低い結果となっている。つまり全体的に銭湯は温泉施設よりも必要度が少し低いという残念な結果になった。

問4では、あなたが現在住んでいる場所にお風呂はあるか、という仮説2を検証するための質問を行った。結果から説明すると、「ある」と回答した人が60人、「ない」と回答した人が2人であった。お風呂が「ない」と回答した2人に興味があるので問5の質問へと進む。

問5では、あなたが大学生になってから銭湯を利用したことがあるか、という質問を行った。

問5	ほぼ毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ない
回答数	0	0	3	22	37

集計した結果、「ほぼ毎日」と「週に数回」銭湯を利用している人はどちらもいないという結果になり、問4で現在住んでいる場所にお風呂がないと回答した2人さえも、銭湯をあまり利用していないという結果になった。しかし、「月に数回」または「年に数回」銭湯を利用する人は25人で40.3%という数字となった。また銭湯を利用したことがないと回答した人は37人で59.7%と過半数を占める残念な結果になってしまった。

問6から問8までは、問5で銭湯を利用したことがある25名を対象にアンケートを行っている。問6では、どのような目的で銭湯を利用したか、という質問を行った。なお、この質問は複数選択可能としている。

問6	1	2	3	4	5	6	7
回答数	0	14	1	0	2	5	7
割合	0%	56%	4%	0%	8%	20%	28%

- | |
|----------------|
| 1. 家に風呂が無いから |
| 2. リラックスしたいから |
| 3. 近くに銭湯があるから |
| 4. 入浴料金が安いから |
| 5. 家の風呂が故障中だから |
| 6. 交流の場として |
| 7. その他 |

↑ 選択肢

まず「家に風呂が無いから」と「入浴料金が安いから」という選択肢を選んだ人は1人もいなかった。

「リラックスしたいから」を選択した人は14人で56%

「近くに銭湯があるから」を選択した人は1人で4%

「家の風呂が故障中だから」を選択した人は2人で8%

「交流の場として」を選択した人は5人で20%という結果になった。その他の意見では、「旅行先で利用した」や「観光時の娯楽」など旅行中に利用している意見が目立っていた。

また銭湯利用者を対象にしたアンケートと学生を対象にしたアンケートの結果から、銭湯は年齢や利用頻度に関係なく、「リラックスしたいから」や「交流の場として」が銭湯を利

用する目的として選択されやすいことが分かった。

問7では銭湯を利用した際に重視したことや改善したらよいと思ったこと、についての質問を行った。集計をした結果、「施設の大きさや風呂の種類が豊富か」という意見が一番多く、重視されている結果となった。これから施設を増築したり、お風呂の種類を増やすことは現実的に厳しいことだが、続いて意見が多かった「ボディーソープやシャンプーの有無、清潔感」などはこれからでも改善の余地があるのではないだろうか。実際、銭湯ではボディーソープやシャンプーを浴場に備え付けていることは少ないので改善するべき点の1つだといえる。

そして問8では、実際に利用した銭湯の名前を憶えている人だけに、回答してもらった。その結果、衝撃の事実が判明した。一番多く記入されていたのが「ぼかぼか温泉」、続いて「龍河温泉」、「長岡温泉」であったのだ。これらの施設は温泉施設であって、銭湯とは別物なのである。つまり、現在の若者はそもそも温泉施設と銭湯の違いが分かっていない人が大多数なのではないだろうか。

ここで温泉と銭湯の違いをいくつか説明しておく。まず銭湯で使用しているお湯は、水道水を沸かしたお湯であるのに対し、温泉で使用しているお湯は、源泉温度が25度以上のものか特定の成分が規定値以上含まれているお湯である。また銭湯は入浴料に価格統制があるが、温泉には価格統制はない。そして銭湯は厚生労働省の管轄であり、温泉は環境省の管轄となっている。これらのことが銭湯と温泉の違いの一部となっている。

ここからは問5で銭湯を利用したことがない、を選択した37名を対象にアンケートを行っている。問9では、あなたが銭湯を利用したことがない理由、についての質問を行った。なお、この質問では複数選択可能としている。

問9	1	2	3	4	5	6	7
回答数	27	9	12	6	8	2	4
割合	73.0%	24.3%	32.4%	16.2%	21.6%	5.4%	10.8%

1. 家に風呂があるから		
2. 他人と風呂に入りたくないから		
3. 近くに銭湯がないから		
4. 不衛生そうだから		
5. 行くのが面倒だから		
6. 入浴料金が安いから		
7. その他		

「家に風呂があるから」を選択した人が27人で73.0%
 「他人と入りたくないから」を選択した人は9人で24.3%
 「近くに銭湯がないから」を選択した人が12人32.4%
 「不衛生そうだから」を選択した人が6人で16.2%
 「行くのが面倒だから」を選択した人が8人で21.6%
 「入浴料金が安いから」を選択した人が2人で5.4%という結果になった。その他の意見では、「どこにあるかわからない（探そうとも思わない）」、「銭湯より温泉の方が好き」など銭湯に対して少しネガティブなイメージの意見があった。また「温泉と銭湯の違いが分からない」という意見もあり、この意見に関しては現在の若者に共通している問題だといえる。アンケートより仮説2の結果として、自宅に浴室がある人は銭湯を利用しない、は概ね間違いではないことが分かった。

5.6 アンケートまとめ

銭湯利用者へのアンケート調査結果から、現在銭湯を利用している人の約9割近くがリピーターであり、平均年齢は65歳と高齢者のリピーターが多いことが分かる。今回私がアンケート調査をした中で一番若い人でさえ、30代であった。このことから10代や20代の若者はほとんど銭湯を利用していないと言っても過言ではない。

一方、学生へのアンケート調査結果から、現在の若者は銭湯への興味関心以前に温泉と銭湯の違いが分かっていないのが現実である。つまり、入浴料金を支払ってお風呂に入っても、その施設が温泉施設か銭湯なのかがわかっていないということだ。ただ、銭湯は温泉施設やスーパー銭湯と比較すると建物が比較的小さかったり、住宅街の中にあったりして見つけにくい場合が多い。その反面、温泉施設やスーパー銭湯は大きく、割と見つけやすい場所にある場合が多いので、おそらく多くの人が利用しているのは温泉施設あるいはスーパー銭湯であろう。

6. 今後の課題

今後の課題として、銭湯がすべきことはやはり情報発信だと考える。私もインターネットを使って銭湯に関する情報を集めていたが、あまりにも情報が少なすぎると実感した。例え情報があっても、かなり昔の情報であることが多々あった。高知市内の5軒の銭湯のうちホームページがあ

るのは今回ご協力していただいた清水湯だけである。現在の若者はわからないことがあるとすぐにインターネットで検索する習性があるので、この習性をうまく生かすためにも、インターネット上に情報を発信していくべきではないだろうか。

参考文献

総務省統計局統計データより抜粋

http://www.stat.go.jp/data/jyutaku/2008/nihon/2_5.htm